

第4学年社会科学学習指導案

日時 平成27年10月21日

場所 4年生教室

授業者 坪井 顕子

1. 単元名 「ごみのゆくえ」(13時間)

2. 指導について

(1) 単元について

本単元「ごみのゆくえ」では、私たちが生活する大野町のごみ処理を中心に扱っていく。まず、自分の家庭から出されるごみの種類と量についての調査をすることで、ごみの処理が自分の生活にとっても関わりのあることに気付かせたい。そして、ごみ収集所の見学や西濃環境保全センターへの見学を通して、可燃ごみの処理に関わっている人や施設の計画的な仕事の工夫に注目させ、その工夫が環境のために行われていることを考えさせる。一方、家庭から出る資源ごみの処理について扱うことで、家庭から出されるごみを分別している意味を考えさせ、ごみの処理法や焼却施設の仕組みなどの知識面だけの理解に終わるではなく、今後の自分たちの生き方を考え、生活の中で実践していけるようにしていきたい。

(2) 児童の実態

4年生は、男子9名、女子12名の21名の学級である。学習に前向きに取り組むことができる。これまでの社会科の学習において消防署や警察署、水源地といった施設への見学においても、知りたいことをもって、その施設で働く人に質問するなどして調べようとする姿が見られた。

本単元に関わって 事前のアンケート調査によると、「ごみを出してよい日はいつか」という質問に対して、「月・木」「月は燃えるごみ、水はプラスチック」のように、詳しく答えることができた児童が少なかったことから、ごみの処理についての関心や知識はあまりないことが分かる。また、リサイクルについても、同様にアンケート調査によると、リサイクルについての基本的な知識はあるように思われるが、リサイクルすることが何のためなのか、なぜリサイクルをしなければならないのかなど、リサイクルの意義について考えている訳ではない。

本単元では、自分から積極的にごみについて調査することや施設の見学をすることで、ごみのゆくえは自

分の生活に関わりのあるものだと感じ、実際に家庭でごみの分別をし、リサイクル活動に積極的に参画しようとする態度を育てていきたいと考える。

3. 研究主題との関わり

研究内容(1)のAに関わって

単元の始めに、家庭ごみの量と種類を調査し、そのごみがどのように処理されるのだろうとなげかけた。その結果をもとに、特に可燃ごみの処理の仕方に焦点を当て、単元を通して追究を進めていくとともに、役場の馬淵さん達が町民にごみを分別してもらってリサイクルをし、少しでも大野町のごみを減らしたいと願っていることに目を向けさせたい。

研究内容(1)のイに関わって

本時の導入では、実際に生活の中で見られる分別しにくいごみを提示し、子ども達はほかのごみと一緒に捨ててもよいと考えるだろうが、役場の馬淵さんは分別するものであると考えているということから、本時の課題化につなげたい。

研究内容(2)のAに関わって

学校周辺のごみ収集所や、西濃環境保全センターといったごみの処理に関わる場所への見学、ゴミの処理に関わる知識理解の学習、可燃ゴミの処理に関わる業者や役場の人、地域住民の工夫や努力について考える学習など、単位時間ごとの役割を明確にして単元指導計画を作成した。

研究内容(2)のイに関わって

本時の終末では、どの児童もまとめを書くことができるように、リード文に続ける形でまとめさせていく。また、全体交流だけでなくペア交流の場を設け、課題に対する答えになっているか、本時のキーワードを用いて書けたか、相互に見届けをする。

研究内容(3)のAに関わって

追究活動の前半には、リサイクル辞典ができた前後の年の可燃ゴミの量と、リサイクルできるペットボトルに関する資料を用意する。その資料から分かったことを交流することを通して、分別を呼びかけているのはなぜかという課題に迫らせる。

研究内容(3)のイに関わって

追究活動の後半には、考えを深めるための資料として、役場の馬淵さんの思いを提示する。細かくごみの分別をして欲しいのは、大野町民が少しでもごみの分別をしてリサイクルをし、ごみの減量を進めていきたいと願っている思いに共感させる。

4. 単元指導計画 (全13時間)

時	ねらい	学 習 内 容	【評価基準】(評価方法)
1	学校のごみ調べを通して、家庭ごみについても調査しようとする意欲をもつことができる。	ごみは生活する中でたくさん出される物であることを再認識する。 教室には、どんなごみがどれだけあるのか調べよう。 教室のごみ箱を調査し、分別をする。 教室には、紙やビニールがあることが分かった。いつのまにかたくさんのごみが出ている。 自分の家には、どんなごみが出ているのか調査しようとする意欲をもつ。	【社会的事象への関心・意欲・態度】 家庭で出されるごみについて調査しようという意欲をもっている。 (発言)
2	各家庭で調査したことを交流することを通して、一週間のごみの量の多さを知り、単元の見通しをもつことができる。	家庭で調べたごみについて交流をする。 家からどんなごみがどれだけでているのだろう。 班ごとで出たごみの種類をまとめ、全体で交流する。 家からは、いろいろな種類のごみがたくさん出ているんだ。こんなにたくさんのごみはこの後どうなるのだろう。 単元の学習の流れを確認し、学習計画を立てる。 単元を貫く課題 私たちが出すごみは、ごみ出しのあとどうなるのだろう。	【社会的事象への関心・意欲・態度】 家庭から出されるごみの量や種類を表にすることで、家庭から出されるごみの多さに気付き、単元の学習の見通しをもっている。 (ノート・発言)
3	ごみの出し方表を用いて、家庭ごみの出し方を調べることを通して、家庭ごみは種類によって分けられ、それぞれ回収する方法が違ふことを理解することができる。	家庭ごみの仲間分けをする。 家から出るごみを、分別表を使って、仲間分けをしよう。 大野町のごみ分別表を使って調べる。 集める日が違う理由を考え交流する。 家から出るごみは、ごみ分別表ですべて仲間分けをすることができる。そして、それぞれのごみを集める日や出し方は違っている。	【観察・資料活用の技能】 家庭から出るごみの分類と出し方を、ごみ分別表を用いて調べている。 (ワークシート)
4	収集所の位置を地図に表す活動を通して、どの地区にもごみ収集所があることが分かる。	校区には、何か所ごみ収集所があるのか予想する。 ごみの収集所はどこにあるのだろう。 収集所の場所を地図に印を付ける。 見学の日時を知り、見学で知りたいことを話し合う。 住んでいる地域のいろんな場所にたくさんのごみ収集所があった。ごみを集める人の仕事について知りたいな。	【社会的事象についての知識・理解】 自分の家の近くにあるごみ収集所の位置を交流し、どの地区にもごみ収集所があることを理解している。 (ノート・発言)
5	ごみ収集所の見学を通して、ごみ収集の方法や収集する人の仕事について調べることができる。	見学のめあてを確認する。 収集する仕事についてくわしく知ろう。 見学をして、仕事について調べる。 ごみを集める仕事は、ほぼ毎日やらないといけないし、重たかったり臭いがしたりしてとても大変な仕事だということが分かった。	【社会的事象への関心・意欲・態度】 見学を通して、ごみの集め方やごみを集める人の仕事について調べている。 (見学の様子)
6	業者の人が、ごみを収集している時の様子を交流し、私たちの生活のために努力していることを理解することができる。	見学の様子を思い出す。 収集する人はどのようにごみを回収していたか交流しよう。 交流する。 収集する人は、分別ができていなかったり水切りが良くなくて重いごみを運んだりといった大変な仕事を一日中している。西濃環境保全センターに運ばれたごみはどうなるのだろう。	【社会的事象についての知識・理解】 ごみを収集する業者は、私たちのごみを集めるために大変な仕事を一日中していることが分かる。 (ノート・発言)
7 ・ 8	西濃環境保全センターの見学を通して、業者によって回収されたごみの処理の様子や方法を理解し、そこで働く人の工夫を知ることができる。	見学のめあてを確認する。 見学をして、西濃環境保全センターのことを知ろう。 見学で分かったことをメモする。 どのようにごみを燃やすのか分かった。環境のために高温で燃やしている。熱も利用しているみたいだ。	【社会的事象への関心・意欲・態度】 西濃環境保全センターで行われているごみ処理の方法や工夫を進んで調べている。 (見学の様子・ワークシート)

9	西濃環境保全センターの見学で分かったことをまとめ、ごみの処理が、環境に配慮された方法でされていることを理解することができる。	見学の様子を振り返る。 見学で分かった工夫をまとめよう。 グループ、全体で交流する。 西濃環境保全センターでは、環境のことを考えて、たくさんのごみを処分していることが分かった。	【社会的な事象についての知識・理解】 西濃環境保全センターがごみの処理の際にしている工夫が環境によいことを理解している。 (ノート・発言)
10 本時	大野町役場の人々が、とても細かくごみを分別して欲しいと思っているのは、地域の人に協力してもらってごみを分別してリサイクルができるようにし、可燃ごみを減らしていきたいと思っているからであると知ることを通して、ごみの分別は役場の人の願いと地域の人との協力によるものであると考え、表現することができる。	ごみを分別し、分別辞典と比べる。 自分と役場の人の考えとの違いから、課題をつくる。 一緒に捨てればいいのに、役場の馬淵さん達はこんなに細かいごみの分別を勧めているのは、なぜだろう。 資料から、大野町をごみの少なくするために分別をきちんとしてほしいという役場の馬淵さんたちの気持ちに気付かせる。 役場の馬淵さんの話から、地域の人にごみを分別してもらって、少しでもごみの少ない町になるように願っている思いに共感させる。 役場の人、地域の人に分別をしてもらって燃えるごみを少なくしていきたいということが分かりました。私達も、少しでもごみの分別をし、リサイクルされるようにしていきたいと思いました。	【社会的な思考・判断・表現】 役場の人々がとても細かい分別をしてほしいと思っているのは、地域の人にも協力してもらってごみを分別してリサイクルをし、少しでも可燃ごみを減らしたいからだと考え、表現している。 (ノート・発言)
11	分別してリサイクルすることは、どのような点で環境によいのか考えることを通して、分別してリサイクルするよさを理解することができる。	リサイクル製品をみる。 分別してリサイクルをすると、どんないいことがあるのだろう。 資料から考える。 分別し、リサイクルするよさをまとめる。 分別するのは、リサイクルしやすくするためだ。リサイクルするとごみの量が減るし、ペットボトルの原料の石油がもったいない。だから分別してリサイクルするのは環境によい。	【社会的な事象についての知識・理解】 分別してリサイクルすることが環境によい理由を考え、理解している。 (ノート・発言)
12	ごみを減らすために私たちになにができるのか、自分の考えをもち、交流することができる。	昔のごみの処分の仕方を知る。 ごみを減らすために何ができるだろうか。 ごみを減らすためにできることを資料で調べる。 全体で交流する。 自分たちが普段から気をつけることで、ごみが減っていくと思う。ごみが少しでも減るように分別回収に協力していきたい。	【社会的な思考・判断・表現】 ごみを減らすために、私たちはどんなことができるのか考え、表現している。 (ノート・発言)
13	ごみの処理の方法について、家庭から出されたごみの処理について、これまでの学習を新聞の形で表現することができる。	ごみの処理方法について図をもとに確認する。 ごみについて、分かったことを新聞にしよう。 新聞にまとめる。 ごみの処分についてまとめた。 ごみを減らすために、自分たちができることをやろう。	【社会的な思考・判断・表現】 ここまでの学習をふり返り、ごみの処理について分かったことを新聞にして表現している。 (新聞)

6. 本時の目標

大野町役場の人が、とても細かくごみを分別して欲しいと思っているのは、地域の人に協力してもらってごみを分別してリサイクルができるようにし、可燃ごみを減らしていきたいと思っているからであることを通して、ごみの分別は役場の人の願いと地域の人との協力によるものであると考え、表現することができる。

7. 本時の展開

段階	ねらい	主な学習活動	指導・援助 ・資料	【評価規準】 キーワード
つかむ	本時の課題をつかむことができる。	1. 導入資料から、本時の課題を設定する。 - 紙袋や紙箱は燃えるごみだよ。 - 生ごみを捨てる袋に入れればよいよ。 - 一緒に捨てればよいのに。 - 分別するのはめんどくさい。 一緒に捨てればよいのに、役場の馬淵さん達はこんなに細かいごみの分別を勧めているのは、なぜだろう。	- 家庭ごみ分別辞典 - 保護者アンケート 分別しにくいごみを提示する。(紙袋、紙箱など)	
調べる	資料から事実をつかみ、課題に対する自分の考えをもち、交流することができる。	2. 予想を交流する。 - 分別すれば、リサイクルをして使えるから。 - 分別すれば、燃えるごみが減るから。 3. 資料を読み取り、考えを交流する。 資料1 リサイクル辞典ができてから可燃ゴミの量が減っている。みんなが分別を意識するようになったのだろう。 資料2 ペットボトルの量は年々増えてきている。 資源ごみにすると、リサイクルされてまた使うことができる。 ↓ ↓ 馬淵さんたちがごみの分別を呼びかけているのは、分別をして燃えるごみになるものを少なくし、少しでもリサイクルして資源にしたいからだ。 4. 深めの資料から、人物の思いについて考えを深める。 - 馬淵さんは、地域の人にごみの分別をしてもらって、ごみを減らしていきたいと考えているんだ。 - 馬淵さんは、町民一人一人にごみのことを考えてほしいと思っている。 - わたし達もごみをしないようにしよう。 - 出たごみを分別しよう。	- 平成15年から17年の大野町の燃えるごみの量 - 分別されたペットボトルの量とリサイクルしてできる製品 - 役場の馬淵さんの話 役場の馬淵さんは、ごみを処理するために使っている費用を少なくして町民の生活がよりよいものになるような使い方をしたいので、ごみの分別をしてほしいという強い願いに迫らせる。	【社会的な思考・判断・表現】 役場の人がとても細かい分別をしてほしいと思っているのは、地域の人にも協力してもらってごみを分別してリサイクルをし、少しでも可燃ごみを減らしたいからだと考え、表現している。
まとめる	学習したことをもとに、課題に対するまとめを書くことができる。	5. キーワードを用いて、学習のまとめを書く。 役場の馬淵さんは、地域の人にごみの分別をしてもらって燃えるごみを少なくしていきたいということが分かりました。私たちも、少しでもごみの分別をし、リサイクルされるようにしていきたいと思いました。	ペアでまとめを交流し、キーワードが用いられているか確認する。	ごみの分別 リサイクル 燃えるごみを減らす